

歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	32	名称	酒肆春鹿 田中家町家
指定年月日	R6.3.12	所在地(指定地)	今御門町 27 番地の 4
指定建造物	主屋	建築年代・概要	昭和 13 年頃 木造二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>猿沢池の南に所在する今御門町は、三条通から南に折れてすぐの上街道の起点に位置し、17世紀末頃には旅籠が多く、社寺への参詣客も宿泊したという。西側は上街道の一筋西の街路をはさんで南市町と接しており、北側の元林院町とともに大正初め頃からは歓楽街としても発展した。現在も、旅館や飲食店などが多く建ち並び、賑やかな通りである。</p> <p>当地は今御門町の南西部の南市町に面する敷地で、前面道路から1mほど後退した位置に建物が建つ。昭和12年に当家が当地を取得し、翌13年に現所有者の曾祖父が建築許可を受けている。当時の建築申請書添付の図面によると、道路敷地境界線から80cmから90cm後退する計画となっており、概ね計画に沿って建てられている。現所有者によると、当初曾祖父は自分の娘の住宅にしようとしたが、娘が早世したことから貸家となり、入居者が旅館を営んできたという。その後、昭和58年に現所有者の父が料理屋の酒肆春鹿を開業し、現在に至る。</p>		
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>当町家は西面する敷地に間口いっぱい建つ木造2階建、切妻造、棧瓦葺で、前面道路に面する西棟、敷地奥の東棟、両棟を繋ぐ南棟が、中庭を囲ってコの字型に建っている。</p> <p>正面外観は1階中央に入母屋破風の玄関が付き、棧瓦葺を基調に庇とケラバは銅板葺で、屋根にむくり、軒に反りが見られる。玄関の左右は腰板張りで木製の腰高の格子窓が、南端には勝手口が付き、棧瓦葺の浅い庇が付く。2階は開口に手摺が付く。外壁は全体的に黄漆喰色であったが、令和5年に白く塗り替えられた。</p> <p>内部は、西棟1階が土間で、中央にコの字型のカウンターテーブル、南側に厨房が入る。奥は中庭を囲うように廊下が付き、南棟に階段とトイレ、東棟に和室と中廊下が配される。2階は西棟と東棟に和室が配されており、広い部屋には床飾りが構えられている。</p> <p>建築申請書添付の平面図によると、正面やや北よりに玄関が付き、西棟北側は居室部で、玄関からすぐに廊下と階段が配され、勝手口から南棟までが土間と計画されているが、痕跡からは概ね計画通りに建てられたことがわかる。</p> <p><改修履歴>昭和35年以前：玄関部改造か、昭和58年：西棟1階居室部を土間に改め、階段を撤去して吹抜けを設置し、背面の縁を拡張。階段は南棟に移設。平成中頃：内壁塗替等 令和5年度：屋根葺替・正面外観改修等。</p>		
活用	飲食店として活用。		
価値	一般的な町家の平面構成とは異なる事例で、外観に町家の表構えが用いられる建築当時の様子がよくわかる。伝統的な外観を継承しつつ時代に応じた変化を受け入れながら営まれてきた生活のあり方を示し、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持向上に寄与する。		



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図

